

会 議 録

1 会議名

令和2年度 第1回上越市介護保険運営協議会

2 あいさつ

3 諮問

上越市第8期介護保険事業計画・第9期高齢者福祉計画策定について

4 議事（全て公開）

<協議>

(1) 上越市第8期介護保険事業計画・第9期高齢者福祉計画の計画策定について

(2) 上越市第7期介護保険事業計画・第8期高齢者福祉計画の評価

(3) 基本施策の体系（案）

(4) 高齢者人口等の推移

(5) 予防・健康管理（データヘルス）の視点で見た上越市の課題

(6) 介護サービス給付費の動向

(7) 現在の介護保険施設等の整備状況

(8) スケジュール

5 開催日時

令和2年10月28日（水）午前10時00分～午前11時40分

6 開催場所

上越市役所 401会議室

7 傍聴人の数

2人

8 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：藤原敬人、山田洋子、熊木敏夫、小関こずえ、竹内明美、竹山貞子、
松本新一、石田さとみ、中川博之、廣瀬政子、押山貴光、島田満富、田中公彦、
古川和代
- ・事務局：市川福祉部長、三上高齢者支援課長、丸田副課長、橋本副課長、清水係長、金
井係長、小松係長、廣瀬作業療法士長、佐藤主任

- ・関係課 すこやかなくらし包括支援センター：岩崎次長、佐藤保健師長、健康づくり推進課：伊倉保健師長、国保年金課：山田主任

9 発言の内容

1. 開会

2. あいさつ

3. 諮問 上越市第8期介護保険事業計画・第9期高齢者福祉計画策定について 市川福祉部長から藤原会長へ諮問書の手交

4. 議事

(1) 上越市第8期介護保険事業計画・第9期高齢者福祉計画の計画策定について

小松係長：資料1に基づき説明

(2) 上越市第7期介護保険事業計画・第8期高齢者福祉計画の評価

小松係長：資料2に基づき説明

【竹内委員】

認知症サポーターの現在の年代別の人数、今後の見解についてお聞きしたい。

【佐藤保健師長】

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で230人程度の養成数となっている。昨年度は100回養成講座を開催し、2,113人の認知症サポーターを養成した。上越市版オレンジプラン（認知症施策総合戦略）において、毎年2,300人の養成を目指して実施することとしており、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けていたものの、徐々に人数が増えつつある状況である。年代別の人数については、本日資料を持ち合わせていないので、後日回答したい。

【古川委員】

有償ボランティアの新規登録者数が減少傾向にあることについての見解と、有償ボランティアの活動内容と利用者の人数をお聞きしたい。

【廣瀬作業療法士長】

有償ボランティア養成講座については、今年度は新型コロナウイルス感染症対策で時間を短縮しながらも、昨年度同様、年6回の開催を予定している。次年度は、参加者を増やすために、各区総合事務所便りへの掲載や、公的機関へのチラシ配布、地域包括支援センターを通じて周知していきたいと考えている。活動内容は主に買い物、掃除、話し相手などで、延べ利用者数は、平成30年度は1,065人、令和元年度は877人となっている。

【竹山委員】

健康支援訪問及び介護予防・重度化防止ケアプランの作成の評価内容について詳しくお聞きしたい。

【伊倉保健師長】

健診結果で重症化のリスクの高い方を対象に保健師・栄養士が個別に保健指導を行っており、その後、年3回程、委託先の介護保険事業所が継続して訪問をしている。高齢になっても働いている方など、定期的な自宅訪問を断る方もいるが、保健師・栄養士が行う初回の保健指導の際に、継続的に健康状態を確認していく事で重症化を予防するという事にご理解をいただき、定期的な訪問を行っている。

【廣瀬作業療法士長】

チェックリスト対象者、要支援1、2、要介護1、2で脳血管疾患の既往のある64歳以下の方を対象に、ケアマネジャーがケアプランを作成する際に市の保健師・栄養士が同行して、再発予防のためにケアプランの中に保健師・栄養士目線の内容を盛り込んでいる。ケアマネジャーに同行して一緒にプランを作成する必要があるので、ケアマネジャーにご理解をいただきながら件数を増やしていきたい。

【古川委員】

在宅医療・介護連携の推進の評価にある人材育成を進めるとは、何の人材を指すのか。

【佐藤保健師長】

在宅サービスに関わるケアマネジャー、ホームヘルパーなど、サービス事業所等の人材育成を進めていくことを考えている。

【押山委員】

重症化予防のケアプラン作成については、保健師・栄養士と連携しているが、重症化予防には薬のコンプライアンスが重要と考えるため、連携の中に薬剤師も加えていただきたい。訪問が難しい場合は、コンプライアンスが悪い患者に対しては薬剤師につなげるという形の連携を進めていただきたい。

【藤原委員】

医師としてもコンプライアンスに関しては重要と考えるため、視野に入れながら進めていただきたい。

(4) 高齢者人口等の推移

金井係長：資料4に基づき説明

(5) 予防・健康管理（データヘルス）の視点で見た上越市の課題

廣瀬作業療法士長：資料5に基づき説明

(6) 介護サービス給付費の動向

清水係長：資料6に基づき説明

(7) 現在の介護保険施設等の整備状況

小松係長：資料7に基づき説明

【石田委員】

ショートステイから特別養護老人ホームへの転換希望があるとのことだが、ショートステイの予約がなかなかとれない状況であるため、今後どのくらい転換の予定があるかお聞きしたい。

【三上課長】

ショートステイの稼働状況や、ショートステイの代替サービスとの関連性を見極めながら検討しているところである。

【古川委員】

人材確保についての具体的な考えをお聞きしたい。

【三上課長】

介護人材については全国的に減少傾向にあると言われており、市内の施設の中でどれだけ人材不足が生じているか各事業所に確認している。人材確保に向けて事業所で努力をされている中で市がどこまで支援ができるか、他の職種でもあるように、外国人人材を含めて事業所でどれだけ確保できるかなど状況を確認しながら取り組んでいきたい。今年度は若い世代に興味を持ってもらうことを目的に、市内高校を訪問して介護事業の説明を行った。今後も介護人材の確保に係る支援を進めていきたいと考えている。

【竹山委員】

特別養護老人ホーム待機者の現状についてお聞きしたい。

【三上課長】

特養入所待機者については、年2回、4月と10月に調査を行っている。入所待ちをしている方は代替サービスとしてショートステイや小規模多機能型居宅介護、訪問介護などを利用されている。待機されている方の中には、家から少し離れた施設に空きがあっても、近くを

希望するというケースもあるため、実態をお聞きしながら分析を進めている。直近では入所申し込みをされている中で緊急性の高い方は126人となっている。

(3) 基本施策の体系（案）

小松係長：資料3に基づき説明

(8) スケジュール

小松係長：資料8に基づき説明

【古川委員】

春日山荘の解体について、春日山荘では生き生きサロンや市民活動をしている高齢者の方が多く、生きがいとなっているため、春日山荘での活動を継続させて欲しい。

【三上課長】

高齢者の方の生きがいづくりとして、趣味講座や社会参加活動は継続していく。なお、春日山荘は上越市社会福祉協議会の建物であり、趣味講座は市が補助している。老朽化している施設であるため、社協と協議をしながら今後の方向性を考えていきたい。

【竹山委員】

春日山荘については、老朽化に伴い修繕費がかかるので、今年度末までは存続するが、その先は分からないと説明があった。また、新型コロナウイルス感染症の影響で講座の時間が2時間から1時間に短縮になり、参加者が減った。2時間に戻す考えはないか。

【三上課長】

春日山荘の運営は上越市社会福祉協議会であるが、同じ高齢者の趣味活動として市の高田西趣味の家と足並みを揃えてもらいながら運営をしていただいている。市で主体となっている講座なので、市で時間を1時間とすれば、社協もそれに習って1時間ということになる。今は、楽しく趣味活動をしていただく中で感染が起きないように時間を短縮して実施しているため、新型コロナウイルス感染症の状況が変わらない中で時間を元に戻すという判断は難しいことをご理解いただきたい。

【小関委員】

何年か前の介護保険運営協議会の場で認知症の行方不明者の搜索の模擬訓練を実施したいと話があったが、実行されたかお聞きしたい。

【佐藤保健師長】

上越市認知症施策総合戦略（上越市版オレンジプラン）の中で、令和4年に模擬訓練を実施することとなっており、今後検討していきたい。初めての取組であるので、皆様からご助

言いたきたい。

【小関委員】

9月に柿崎区で認知症の方が行方不明になって翌日頸城区で発見されたという事案があった。出来れば各地区で消防や警察を含めて実施していただきたい。

【古川委員】

介護報酬特例による利用者負担増について、上越市での事業所の実施状況をお聞きしたい。

【橋本副課長】

事業所が利用者に説明し、同意した場合に負担増となるため、不公平感があるという感触があった。厚生労働省に対して、現場で説明に苦慮しており、給付管理をするケアマネジャーも業務が増えていると伝えた経緯がある。国の制度なので、市として一律に事業所に対してこの制度を使う使わないということについて指導する立場にはないと考えている。来年度報酬で整理するのか、今後の動きはまだ分からない状況である。

【古川委員】

市内の全ての事業所でこの制度を実施しているか。

【橋本副課長】

全ての事業所がこの制度を行っているというわけではない。事業所によっては、様子を見て実施しないという判断をしたところもある。

10 問合せ先

福祉部高齢者支援課介護指導係 Tel.025-526-5111（内線 1673）

E-Mail : kaigo@city.joetsu.lg.jp

11 その他

別添の会議資料も併せて御覧ください。